

## 国内トップの毛織メーカー

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第 95 号
名称 (型式等)	旧日本毛織株式会社中山工場
所在地	千葉県市川市鬼高 1-1-1
	ニッケ・タウンパートナーズ (株)
設立 (竣工) 年	昭和 63 (1988) 年

### 選定理由

千葉県市川市鬼高のニッケコルトンプラザ、市川市生涯学習センター(メディアパーク市川)、千葉県立現代産業科学館などがある敷地は大正から日本の一時代を担った繊維産業の大工場であった日本毛織株式会社中山工場の跡地です。この工場は一つの町を形成するほど大きな施設・設備を持っていました。

工場の歴史をたどると、昭和 16 (1941) 年共立モスリン株式会社 (旧中山工場・旧館林工場) を吸収合併し、同年 7 月に日本毛織株式会社中山工場として誕生しました。同年 12 月太平洋戦争の開戦により原料の調達や機械設備の供出により生産状況は厳しいものでありました。終戦を迎え、昭和 24 (1949) 年戦災によって焼失した工場も復旧し、日本の繊維産業復興の波に乗り、回復が進みました。昭和 26 (1951) 年度には実質国内総生産 (実質 GDP) も戦前の水準に達し、大変な勢いで復興が促進され、この時期、日本毛織株式会社は、中山工場の貢献もあり業績が大変好調でした。昭和 31 年末には工場面積 70,539 坪、生産能力 640,000 ポンド、従業員数男子 486 名、女子 1,404 名までに回復しました。しかしながら、昭和 40 (1965) 年以降、次第に工場も下降線を描くようになり、輸出に活路を見出しましたが、昭和 48 (1973) 年の第一次オイルショックを契機に繊維不況がおこり、設備縮小が進められるようになりました。このような情勢の中で、昭和 54 (1979) 年 3 月、日本毛織株式会社は中山工場の全面閉鎖計画を発表し、昭和 57 年 3 月に昭和 16 (1941) 年の操業から 40 年の歴史を誇った日本毛織株式会社中山工場は最後の機械を停止することとなりました。

この工場跡地に昭和 62 (1987) 年末に着工した「ニッケコルトンプラザ」が昭和 63 (1988) 年にオープン。さらに、平成 21 (2009) 年、令和 4 (2022) 年にリニューアルオープンし、新たなにぎわいの場ができました。中山工場時代を語る場として、神宮社と稲荷社からなる「ニッケ鎮守の杜」は現在も多くの人々が憩い、集う場として当時の面影を残しています。隣接する跡地には平成 6 年に開館した、市川市生涯学習センター(メディアパーク市川)、現代産業科学館ともに地域の新たな拠点となっています。



取り壊し前の中山工場



ニッケコルトンプラザの全景 (開業時)

協力：日本毛織 (株)、ニッケ・タウンパートナーズ (株)

参考文献：日本毛織 (株) 日本毛織 60 年史、日本毛織 100 年史